

コウガの森・共和から

園長 小林 崇

「お手伝い」のすすめ：将来の幸せを願い

新しい年を迎え、1月が経ちました。2月を前にして、園の中では年長児の卒園式に向けて、文集の作成や写真撮影などの準備が進んでいます。年長児にとっては残りわずかの園生活となりました。それぞれのクラスでも新年度に向けて、共感や感動をもって過ごせるよう1日1日を大事に過ごしていきたいと考えています。

さて、今回は「お手伝い至上主義でいこう！」(三谷宏治；2011)という図書の紹介をいたします。先ずはあるエピソードから。

ある人気企業の人事部に配属先の管理職から大クレームがきました。

「何であんな奴採用した」。

「段取り悪い」、「感謝しない」、「気が利かない」、「口ばかり」…。要は、社会人として使えない！それは、人事部があらゆる試験の果てに採用した優秀な人材の筈でした。

これには後日談があります。

配属先の評価が高い・低い社員を比較したところ、子どもの頃に家でお手伝いをしていた社員はOK・そうではない社員はNGということが分かったようです。

勿論、エピソードは経験的なものですが、「お手伝いをよくしている」と「道徳観・正義感が強い」には関係があるという社会調査もあるようです。因みにこの道徳観とは、近所の方への挨拶や席を譲る・友達が悪いことをしていたら止めさせるなどの行動です。

どうも幼少期のお手伝い経験は、「人」としての基本を養う上で非常に重要なようです。

図書では、家事を子ども達が徹底的に分業するのが基本とっています。炊事・洗濯・掃除・整理整頓などですが、年齢ごとに、靴をそろえる・箸を配る・服をたたむ・ゴミを捨てるなど様々な段階や出来る範囲があるでしょう。

子どもにお手伝いをさせることは、親にとっては手間を増やすことです。

しかし、手間の先にある、将来の子ども達の社会的な活躍や姿を思い、お手伝いのさせ方を考えてみたり、今のお手伝いを再検討してみてもいいでしょうか。

「お手伝い(=親の仕事のサポート)を生活の最上位に位置づけることで、親のやっている仕事(家事を含む)が家族においてもっとも大切なことなんだという価値観も、伝えることができるでしょう。それなくして、親や社会、他人への感謝は育ちません。そこから高い道徳心や正義感も生まれてくるでしょう。」(三谷 2011；93)

楽しく且つ、徹底的に。お家のことを子ども達に手伝ってもらいましょう。将来の幸せを願って。